

(様式2)

平成 28 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101075		
法人名	社会福祉法人遊生会		
事業所名	認知症高齢者グループホームまいらいふみずき野		
所在地	新潟市西区みずき野1丁目15番22号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年3月23日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅から近く静かな住宅街の中にあり、当法人の4番目のグループホームとして開設されました。公園が近くにあり、運動を兼ね散歩しながら地域の方々と交流させて頂いております。日々の生活の中で、お一人おひとりがご自分の出来る事を見つけ、お互いを支えながら生活されています。職員も寄り添いながら見守っております。地域の方からもご理解を頂きボランティアに来て頂いたり、地域行事に声掛けして頂き参加させて頂いております。また、ホーム脇にある畑に野菜を作り、ご利用者の楽しみである収穫や草とりを行って頂きながら、食べる楽しみにも繋げています。職員もケアを行うという思いだけでなく、時には友達になったり、時には息子や娘になったりして、たくさんの人生経験を積ませてもらっています。今後は、地域に根差した、地域の方からいつでも気軽に立ち寄って頂けるよう職員一同、より一層の努力と研鑽を行い頑張っていきたいと思っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は四方を自然豊かな田園地帯に囲まれた新興住宅地の中に位置しており、近くには広い公園もあり、事業所に隣接した空き地には持ち主が植えた果樹が四季折々に果物を実らせ、角田山や弥彦山の彩りとともに利用者に季節を感じさせている。また、少し足をのばせば大学や喫茶店などもあって暮らしやすい環境が整っている。

開設して5年目を迎えるが、年々地域との交流の機会が増え、子どもたちや若い世代の人たちとも挨拶を交わしたり、協力を得る機会もある。また、管理者は事業所が地域密着型サービスであることを意識しており、事業所自体が地域の中で役割が担えるように取り組みを重ねている。これまでは清掃活動や自主防災訓練への参加であったが、新たに市の制度である「元気アップサポーター」「AEDの貸し出し」への登録を実施し、さらには「ひとり暮らしや高齢世帯等の買い物難民への支援」等、事業所でできる事を地域に発信して地域貢献に取り組んでいきたいと考えている。

管理者、職員ともに利用者が笑顔で暮らすことができるように、一人ひとりの思いや暮らし方に寄り添い、菜園活動や編み物、暖簾づくり、塗り絵等の楽しみごとが継続できるように支援している。運営推進会議での助言により防災頭巾等を作り、地域の作品展に出展することで、利用者の生きがい活動に繋げている。法人では他の地区でもグループホームを運営しているため、事業所間で情報交換を行う機会もあるが、職員はよりサービスの質の向上を目指して、他法人が運営する同地区の地域密着型サービス事業所との相互研修や情報交換会等の必要性を感じている。認知症に対する地域全体の福祉サービスの質の向上を図る核となって取り組んでいける事業所として今後のさらなる活動が期待される。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所独自の理念を揭示し、職員に随時ケアに活かしてもらうようミーティング時確認を行い実践に繋げている。	法人の設立時に理事長が地域貢献の精神で作った理念を基に、事業所独自の理念を作っている。日々、サービスを振り返ることや、スタッフ会議の中で目指す方向性を確認するなど、「笑顔で」「挨拶をする」等の実践に繋げて利用者の暮らしが豊かになるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の各種行事にご利用者と参加している。秋に行う作品展にご利用者手作りの作品を出品、また地域の方よりボランティアに来て頂き交流を深めている。	管理者、職員共に事業所が地域密着型サービスであることを認識しており、年々地域との交流を広げている。地域の一員として自治会の清掃行事への参加や、自治会主催の作品展への出展、アコーディオンやハーモニカ演奏の慰問を受ける際には地域住民に声かけを行うなど、さらに地域での暮らしを支援するために取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のご利用者の方が各種行事に参加することで、認知症の人となり地域の方に理解して頂くよう努めている。また、今後はボランティア来訪時に地域の方に呼びかけを行い参加を募ったり、買い物に行けない方の買い物援助も行っていく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、活動報告・サービスの取り組みについて報告。出席者の方より有意義な意見やアドバイスを頂き、サービスの向上に活用させて頂いている。グループホームを地域に定着させる窓口になって頂いている。	運営推進会議は利用者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員で構成されており、利用者が地域の一員として暮らせるように地域の情報を得たり、サービスの質の向上に向けて必要な取り組みを検討する機会としている。次年度は保育園児との交流を図る取り組みが進められている。会議内容は、職員や参加していない家族へも報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護のご利用者がいられるので定期的に市の職員が様子を見に来られたり、問題等生じた際は、相談させてもらっている。元気アップサポーター制度も活用させて頂いている。	生活保護対象の利用者を通じて市の担当職員との情報共有が図られている。また、「元気アップサポーター」制度によるボランティアの受け入れや「AED」の貸し出し等、事業所としてできることを示して協力している。地域ケア会議への参加を通じて地域の高齢者の状況の把握に努め、地域貢献に繋がるように協働に向けた取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内や社協の研修に参加。スタッフ会議などで報告したり、理解できる様具体事例を説明したりしている。法人としてのマニュアルも作成している。緊急時等止むを得ない場合のみご家族様に説明し同意を頂くようにしている。	身体拘束については、行ってはいけないこととして全職員が認識しており、身体拘束のないケアの実施に取り組んでいる。身体拘束ではないが、入浴拒否のある利用者に有期的に二人介助を行っている事例について、家族への説明と同意を得ており、日々対応策を検討して取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修を受け、スタッフ会議などで理解を深めるよう勉強会を行っている。必要に応じプリントした物を配布し再度の認識の構築に努めている。	法人研修や外部研修への参加を通じて虐待について学ぶ機会があり、また、ニュース等で報じられた内容について管理者が話題提供を行い、職員間で確認する機会が持たれている。スピーチロック(言葉による行動制限)について話し合う機会もあったが、「高齢者虐待防止関連法」について定期的に学ぶ機会は持たれていない。	事業所における「虐待」については、どの事業所も行っていないと捉えているところであるが、どの行為が虐待にあたるのか等の認識が不足している場合もある。現在の取り組みに加えてさらに定期的な研修を重ねるなど、虐待を見逃すことがないよう今後のさらなる取り組みに期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されている方はいられないが、成年後見制度の研修に参加し研鑽を深めている。今後活用したいと思う。職員間でも理解を深めるように更なる学びの機会を増やしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際は、費用等の説明だけでなく、グループホームで発生しやすい事故及び対策、重度化した際の取り扱いなども丁寧に説明し十分な理解を頂いた上で署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時はもちろん、定期的にお便りを発行してご利用者の近況を伝えると同時に意見や要望を伺ったりして運営に反映している。	意見箱の設置の他、面会時や通院日、電話連絡時に家族とゆっくり話す時間を持ち、「いつでも、気軽に意見・要望等を申し出て欲しい」ことを伝えている。また、職員間でも、利用者・家族と接する際には意識して笑顔で受け答えができる雰囲気づくりに努めるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月一回行い、職員間の問題や改善策を話合っている。また、必要に応じ代表者主催の月二回の管理者会議においても法人内の他の施設・グループホームと意見交換を行って日々の運営に反映させている。	日々のミーティングや月1回のスタッフ会議では、職員の意見や提案事項を聞く機会としている。変則勤務形態の中で、職員からの提案や意見の聞き漏らがないように、申し送りや「連絡ノート」への記録で確認を徹底するようにしている。事業所の意見及び、浴室の手すり・暖房整備等の要望は管理者会議において代表者へ伝わるシステムになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月二回の、代表者主催の全事業所の管理者や施設長の会議で活動報告や業務の報告を行い代表者より問題点改善の指針やアドバイスをもらっている。また事業所に来訪し職員の思いをくみ取ったり仕事に対する姿勢を説いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修の積極的な参加を促している。スキルアップの為に資格の習得奨励と費用の一部補助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加し交流を図ったり、意見交換を行っている。法人内グループホーム同士で研修をしたりし、職員の意識改善やサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学・体験なども利用してご本人の気持ちを大切に寄り添い話やすい環境を作るように努めている。入居前の生活と同じように過ごせるよう要望も聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、ご家族よりご利用者様に対しての要望や思いをお聞きし、それを基にサービスを提供し家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他法人のサービス・法人内他施設のサービスなどの利用も含め、ご本人、家族が今何を必要としているか見極めカンファレンスを行いながら一番必要な支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士の関係性を築く為、常に側に寄り添い、共に笑い・泣ける関係作りに努めている。掃除・配膳・後片付け・畑の手入れ・日常の買い物などを一緒に行いながら関係をさらに深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の様子を毎月便りでお知らせしている。問題が生じた際は、ご家族に連絡しご本人にとって最良の方法をご家族と相談しながら見極めるよう努めている。	通院は基本的に家族対応で実施しており、入居後も家族が利用者で過ごす時間が多く持てるようにしている。また、入浴がスムーズに実施できない利用者の家族から自宅入浴の申し出があったり、衣替え等も家族と一緒に行動するなど、利用者を一緒に支えるため家族との良好な関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られた時はゆっくり過ごして頂けるように支援している。また、いつでも来て頂けるよう声かけを行っている。馴染みの場所へのドライブなどにもお連れしている。	利用者の中には自宅での暮らしが切ない思い出となっている人もいますので、様々な情報を得ながら一人ひとりにとっての馴染みの関係が途切れないように支援している。知人を迎えた時の対応であったり、電話や葉書を出す支援であったり、また、塗り絵や針仕事の趣味が継続して行えるように工夫するなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然な形で関係が生まれており、職員は見守っている。ご利用者様同士慰めあったり、元気づけたりされている事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、移動先に仲の良かったご利用者様と面会に伺ったり、ご家族から畑作りのお手伝いを行って頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で話を聞いたりし、思い・意向・希望をくみ取るように努めている。また、伝えられない方に対しては、職員間で検討をして最善の支援を行えるよう努めている。	職員全員が利用者一人ひとりの思いを見逃さないように、聞き逃さないように注意を払いながら接している。また、把握できた思いは「連絡ノート」に記載して全職員に伝わるようにしている。言葉に表せない利用者には、選択できるように声かけを工夫したり、仕草から読み取るようにするなど、利用者の気持ちに寄り添ったケアの実践に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より、生活歴・馴染みの暮らし方を伺ったり、居宅支援事業所の介護支援専門員より情報提供してもらっている。ご利用者様からも日常の会話から把握するよう努めている。	入居前の事前面談では、センター方式のアセスメントシートを活用して、これまでの暮らしや生活歴の把握に努めている。在宅サービスを利用していた利用者については、サービス事業所から得た情報も活用できている。入居後に得た情報も書き加えて職員への周知を図っている。	これまでは新規の入居者に対する事前面談は、サービス事業所等で実施していた。だが、今後はより入居前の暮らしぶりや習慣を把握するために、自宅訪問等を実施して生活環境等も併せて把握し、入居後もより本人らしい暮らしが継続できるよう取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方・心身状態・有する力を生活記録に記載し、把握・共有に努めている。引き継ぎや連絡ノートで問題点やケア方法を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用。居室担当者が中心となり、家族の了承のもと現状に即したケアプランを作成している。毎月、居担当がモニタリングをおこない、必要に応じカンファレンスも行い介護計画に反映している。	日々の状況や暮らしの課題、利用者の思いを全職員で検討する機会を持ち、担当職員と計画作成担当者が中心となって介護計画を作成している。毎月のモニタリングと6ヶ月後の見直しのほか、状態に変化が見られた場合は計画の変更を行っている。担当者会議には利用者・家族が参加しており、必要に応じて訪問看護師からも意見聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を生活記録に記入し職員間で共有・実践している。連絡ノートで更なる情報の徹底を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応できるよう、またご家族の思いにも柔軟な支援が出来るよう努めている。ご利用者様の重度化に応じ法人内施設と連携。最良の支援が出来るよう努めたいと思っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや防災訓練など、自治会のイベントに参加したり、近くの公園を散歩し地域の方と交流させてもらっている。また、地域の方よりボランティアに来て頂いたり、駅近くのカフェにも行かせてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からのかかりつけ医を主治医としてご家族の付き添いで受診。受診結果は、連絡ノートや生活記録で情報を共有している。受診時、問題等あった際は、手紙や電話で対応。緊急時は職員が付き添うこともある。	利用者・家族の希望を受けてこれまでのかかりつけ医の継続を支援している。受診は基本的に家族対応で実施しているが、訪問診療を希望する利用者は協力医に変更している。いずれのかかりつけ医とも相談しやすい関係性が築かれており、適切な医療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年12月より、訪問看護を導入。週一回訪問で日常生活や観察等で異常があった場合医療的なケア方法や受診の必要性を相談。24時間オンコール体制で随時連絡できアドバイスが受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、状況把握のため、随時病院関係者や家族と連絡を密にし、今後の対応や早期退院に繋がるよう調整を行ってきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、ご利用様が重度化した場合の方針を伺い、法人運営の特養の紹介なども伝え家族の意向に添える対応をしたいと思っている。終末期については家族の希望を伺いながら既に実施している訪問看護とも協力しながらホーム内で出来る支援を伝えたい。	現在、法人で運営する介護施設があり、また、職員体制から、事業所での終末期の支援は実施していない。ただし、入居時には事業所でできる範囲の支援について十分な説明を行い、利用者・家族から同意を得ている。利用者の状態変化に伴い、早い段階から検討を重ねて住まいの移行ができるように支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で救急時の研修に参加。緊急時の対応のマニュアルも作成し、いつでも見れるようにしている。AEDも備えている。実践力がつくよう訓練を増やしていきたい。	緊急時の連絡体制やサービス提供時の緊急対応マニュアルは整備されている。また、平成28年12月から導入した訪問看護との連携により、医療面での指示が受けられる様になり、職員の安心に繋がっている。しかし、定期的な初期対応の研修実施には至っていない。	利用者の急変や事故発生時は数秒を争う事態となる。また、夜間帯は職員一人となることから、急変時の対応については全職員が実践的な研修を重ねて力をつけていくことが望まれる。今後はさらに定期的な研修の実施やマニュアルの見直しに取り組んでいくことを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。昼夜と地震を想定し行っている。新人職員には、必ず訓練の体験をしてもらい実践力を身につけるようにしている。地域の方にも運営推進会議を通じお願いしている。ヘルメットも常備している。	災害についてはマニュアルの整備のほか、避難場所・避難経路の確認、また、平成28年度は地域の自主防災訓練に参加するなど、地域の事情を把握しながら避難訓練を実施している。運営推進会議においても議題として取り上げており、年々地域との連携を図りながら協力体制の構築に取り組んでいる。	地域の自主防災訓練に参加できたことをさらに発展させて、近隣住民・事業所からも有事の際には協力が得られるように働きかけていくことが望まれる。また、夜間帯は職員一人となることから、夜間帯に近い条件の中でも訓練を実施し、力をつけていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	氏名の呼び方や排泄の失敗、入浴時のプライバシーなど、人格や尊厳にかかわるケアには特に気をつけ、ご利用様様の自尊心を傷つけないようさりげない言葉かけや対応に努めている。接遇の内部研修に参加し意識向上に努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用して、利用者一人ひとりに応じた声掛けや対応の方法を職員間で決めている。また、常に利用者を尊重し、誇りを傷つけないように接しており、時に不適切な声掛け等があった場合には、職員間で注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、思いや希望を聞きとったり、小さな事でもひとつひとつご利用者様の許可を頂いている。行事・外出・食事の嗜好なども希望をお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムを大切に、かわりを持ちながら希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるように言葉かけやアドバイスをしている。鏡で確認を促し、整容もできない方には職員がお手伝いをさせて頂く。理事長からも強く指導されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・後片づけ・配膳と行って頂いている。好き嫌いのある方には、替わりのメニューをお出ししている。メニューを書いて頂いたりし食事を楽しみなものにしている。	職員は、食事を作ることも食べることも利用者にとっては暮らしの中で最も楽しみなこととして捉えており、一緒に食事作りや片付けを行っている。メニューの栄養バランスを考慮しながら季節の食材や利用者の好みを取り入れ、苦手な食材は代替え食品を提供し、朝食はパンと米飯が選択できるなど、全ての利用者が食事を楽しめるように工夫している。また、手作りおやつやさわし柿作りも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは職員間で栄養バランスを考えながら決めている。食事量や水分量は摂取の声掛けを行っている。誤嚥の危険がある方は食べるサイズを考慮している。お茶などはいつでも飲めるようにしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。できない方は職員が介助し磨いている。義歯の方には、洗浄液で清潔保持をして頂いている。年一回新潟市歯科医師会より紹介された協力歯科医院による歯科健診も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方がほとんどである。紙パンツを使用されている方は定時誘導を行い、排泄は尊厳維持の土台であるとの認識を職員が共有し、トイレで排泄して頂くよう援助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、職員間で必要なケアの内容を周知できている。排泄に関して自立している利用者が多いが、普段の排泄状況を適切に観察しており、便秘が続く等いつもと違う時には早めに対応できるようにしている。誘導時の声掛けも羞恥心に配慮して他の利用者が気づき難いように行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛けや乳製品・海藻類をメニューに取り入れている。体操や腹部のマッサージなどを行い、自然排便できるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞きながら入浴して頂いている。入浴剤も使用し目でも楽しみながら入浴して頂いている。入浴を拒否される方には毎日声かけし入浴意欲が起るよう努めている。	入浴は利用者の希望を反映させて基本的には週2回の入浴としているが、夏場やその日の利用者の状況によって、入浴回数を増やしたり、曜日の変更を行っている。同性介助の実施や、声掛けから入浴の一連の介助を一人の職員が担当するなど、心地よく入浴できるように工夫している。入浴剤を使用してより楽しみな入浴時間となるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活習慣やリズムに合わせて休んで頂くように支援している。時には、眠くなるまで話相手をしたりして、安心して休まれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋をファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬の変更や症状の変化があった際は、引き継ぎや連絡ノートで職員に周知させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の得意分野や趣味を活かして頂けるように支援している。歌や塗り絵・家事・菜園の手入れなどをその日の様子にあわせて行って頂いている。おやつなども希望された物品を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と昼食に出られたり、弥彦の牡丹園・みずき野周辺のドライブなどを楽しんで頂いている。衣類の買い物なども行かれてる。近くの喫茶店にも出かけてコーヒーを楽しまれている。	日常的には近くの公園や駅、事業所周围の散歩に出かけている。少し足をのばして、地域の観光地や海、資料館等へ見学に出かけることもある。利用者の希望により買い物に出かけたり、最近では近くの喫茶店でコーヒーを楽しむこともある。また、家族の協力を得て外食を楽しむ機会を持てるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かり金を頂き、日常の必要品を購入している。希望される時は職員と一緒に掛けて好みの物を選んでもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、電話出来る様に支援している。書ける方には、毎年年賀状を家族宛に書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみを置いて和んで頂いたり、玄関に季節の花を飾り水やりを行ったりされている。壁に飾った写真を見ながら、話題にされ会話が弾んでいることも。	共用空間は明るく清掃が行き届いている。また、季節の花や壁面の飾りつけからは季節感を、利用者の手作りのれんや花台敷等からは家庭的な温かみを感じることができる。浴室・トイレも広く適所に手すりの設置も施され、安全性への配慮もうかがえる。食堂の椅子の高さは足台等で調節し、利用者がゆっくり過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広く設計した廊下にソファが置いてあり、気の合った方と歓談や縫い物をされたり、食堂でランプやカルタなどをおこない、交流されている。趣味のぬり絵や折り紙を行っている方もいられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族にお願いし使い慣れた家具や身の周りの物を持って来て頂いている。写真を飾ったり位牌を置かれてる方もいられ、心が和むよう支援させて頂いている。	居室には備え付けの洗面台があるほか、一人ひとりの利用者が自宅から使い慣れた家具や寝具等を持ち込んでいる。仏壇を持ち込んでいたり、作品や家族写真などを所狭しと飾っている利用者、趣味の塗り絵を居室で楽しんでいる利用者もいる。洗濯物を干したり、毎日掃除を行ったり、一人ひとりが居心地よく過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下には手すりが設置され、歩行の不安定な方も安心して動けるよう配慮している。部屋やトイレの表示も工夫し暖簾を下げたりしている。夜間、トイレに行かれる時もセンサーで灯りがつき安全にも配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				